

逗子市第一運動公園再整備基本計画



平成22年12月
逗子市
有限会社伊藤寛アトリエ

はじめに

第一運動公園は、昭和47年9月都市計画決定後、市の中心となる地区公園として運動施設を主体に整備され、多くの市民に利用されてきました。しかし、開園後相当の期間が経過し、施設機能の老朽・劣化が目立ち始め、今後の市民ニーズに対応できなくなってきたため、新たに当該公園に求められる施設機能の向上・充実と併せて再整備を行う必要があります。

こうしたことから、老朽・劣化した施設の改修だけでなく、逗子市の中心的な公園として、防災機能の充実、バリアフリーや多様化する公園へのニーズにこたえうる施設として整備することを目的としています。

目 次

第 1 章 計画の概要

- 1. 再整備計画の目的 …… P. 4
- 2. 再整備計画対象地 …… P. 5

第 2 章 現状把握

- 1. 都市・自然環境
 - 1-1 自然環境 …… P. 6
 - 1-2 逗子市都市公園の配置 …… P. 7
- 2. 社会環境 …… P. 8
- 3. 構造的位置付け …… P. 10
- 4. 敷地分析 …… P. 11
- 5. 利用者ニーズの調査 …… P. 13

第 3 章 再整備基本計画

- 1. 公園全体の再整備計画の方針
 - 1-1 逗子の自然環境・住環境に調和した公園再整備 …… P. 15
 - 1-2 空間基本コンセプト …… P. 16
 - 1-3 公園全体の空間構成 …… P. 18
 - 1-4 緑地空間 …… P. 19
 - 1-5 交通空間 …… P. 21
 - 1-6 基幹空間・施設空間 …… P. 22
 - 1-7 配置計画 …… P. 23
- 2. 施設計画の方針
 - 2-1 理念 …… P. 24
 - 2-2 施設全体計画 …… P. 25
 - 2-3 施設平面計画 …… P. 27
 - 2-4 施設諸室計画 …… P. 28
 - 2-5 施設規模検討 …… P. 29
 - 2-6 施設パース …… P. 30
- 3. 公園としての機能を高める
 - 3-1 防災機能の充実 …… P. 31
 - 3-2 バリアフリー化 …… P. 32
 - 3-3 新エネルギーの利用検討 …… P. 33
- 4. 利用者数の予測 …… P. 34

第1章 計画の概要

1. 再整備計画の目的

逗子市では、第一運動公園の再整備を通して、次の個別の目的の達成を目指します。

(1) 施設の老朽化による公園利用の低減化を改善し、公園施設、特に水泳プール施設の安全性や快適性の向上を図る。

(2) 多くの市民が集い利用する公園としての機能を高める。

ア 防災機能の充実

広域避難場所としての役割を高め、災害ボランティア活動や物資集積・輸送の拠点として活用できるように施設を充実させる。

イ バリアフリー化

全ての利用者が安全、円滑、快適に移動できるよう園路、広場や施設の見直しを行い、「都市公園移動等円滑化基準」に適合するバリアフリーの公園として整備する。

ウ 新エネルギーの利用検討

循環型・低炭素社会システムの進展及び災害時に対応し、公園施設に必要なエネルギーや資源を雨水や太陽光などの自然エネルギーからも調達できるよう検討する。

(3) 多様な市民のニーズに対応する機能の充実を図る。

地理的に逗子市の中心的な位置にある本公園内に、中・高生の居場所として、また、生涯学習・スポーツなど多様な活動を通じた異世代間の自由な交流拠点となる*体験学習施設を整備する。

*「体験学習施設」とは、都市公園法において「公園利用者が、運動、植物等に関する実験、体験、実技、講義等を行うことができる施設」を言います。

2. 再整備計画対象地

■第一運動公園の現況

- (1) 面積 55,576 m² (都市計画決定面積5.5ha)
- (2) 告示年月日 昭和57年12月21日 (当初昭和47年9月8日)
- (3) 場所 逗子市池子一丁目275番1 (代表地番)
- (4) 公園種別 地区公園
- (5) 用途 第一種住居地域 (建築基準法第48条第5項)
- (6) 高さ制限 12m (逗子市まちづくり条例施行規則第39条第1項第5号)
- (7) 建ぺい率 2/100 (都市公園法第4条) + 10/100 (都市公園法施行令第6条第1項第1号、
休養施設、運動施設、教養施設、備蓄倉庫等)
- (8) 現建築面積 837.91 m² (プール管理事務所、テニスコート管理事務所、弓道場、野球場観覧席、
防災倉庫、トイレ、車庫、売店)
- (9) 主な施設 野球場、テニスコート、弓道場、屋外プール (50m・25m・流水プール・幼児用プール)、
自由運動広場、子供広場、トイレ、駐車場、ほか

■整備範囲

公園全体。

ただし、野球場、テニスコート、弓道場、自由運動広場は再整備の対象外とする。

第2章 現状把握

1. 都市・自然環境

1-1 自然環境

逗子市は三浦半島の北西部に位置します。逗子の市街地は東西に細長い沖積低地を形成し、その周辺は緑豊かな神武寺・鷹取山・池子山・二子山山系と青海で囲まれ、山から流下する水がやがて田越川、池子川などの流れとなり、海と山を結ぶものとして市街地の中を流れている、自然環境豊かな街です。

この地理的背景が、逗子市の地域特性の一つである多くの斜面緑地及び谷戸空間を形成し、逗子市の水と緑豊かな住環境をつくりだしてきました。



計画対象地位置図（国土地理院地形図より作成）

1-2 都市公園の配置

逗子市には83の都市公園があります。なかでも第一運動公園は逗子市の中核をなす地区公園であり、これからも多くの市民から広く利用される公園です。

逗子市の主な都市公園配置を見ると、逗子市の環境特性である「海と山」という地勢の特性と公園の配置には明らかな相関性が見て取れます。

大崎公園、披露山公園、盧花記念公園など、海と近い「海の辺の軸」に位置する公園と、一方桜山中央公園、久木大池公園など、逗子の山々との関係性が強い「山の手の軸」に位置する公園であると言えるでしょう。

この地域特性と公園の関係性を各公園整備計画方針に取り入れ、逗子の環境特性に見合った、逗子市らしい特色のある公園に再整備していくことが望まれます。

上記の考えに基づき第一運動公園を位置づけると、この公園は海と山をつなぐ川との関係性をもった中核的な公園であると言えます。

本公園の再整備が他の公園再整備計画の先導的役割を担うものとして計画します。

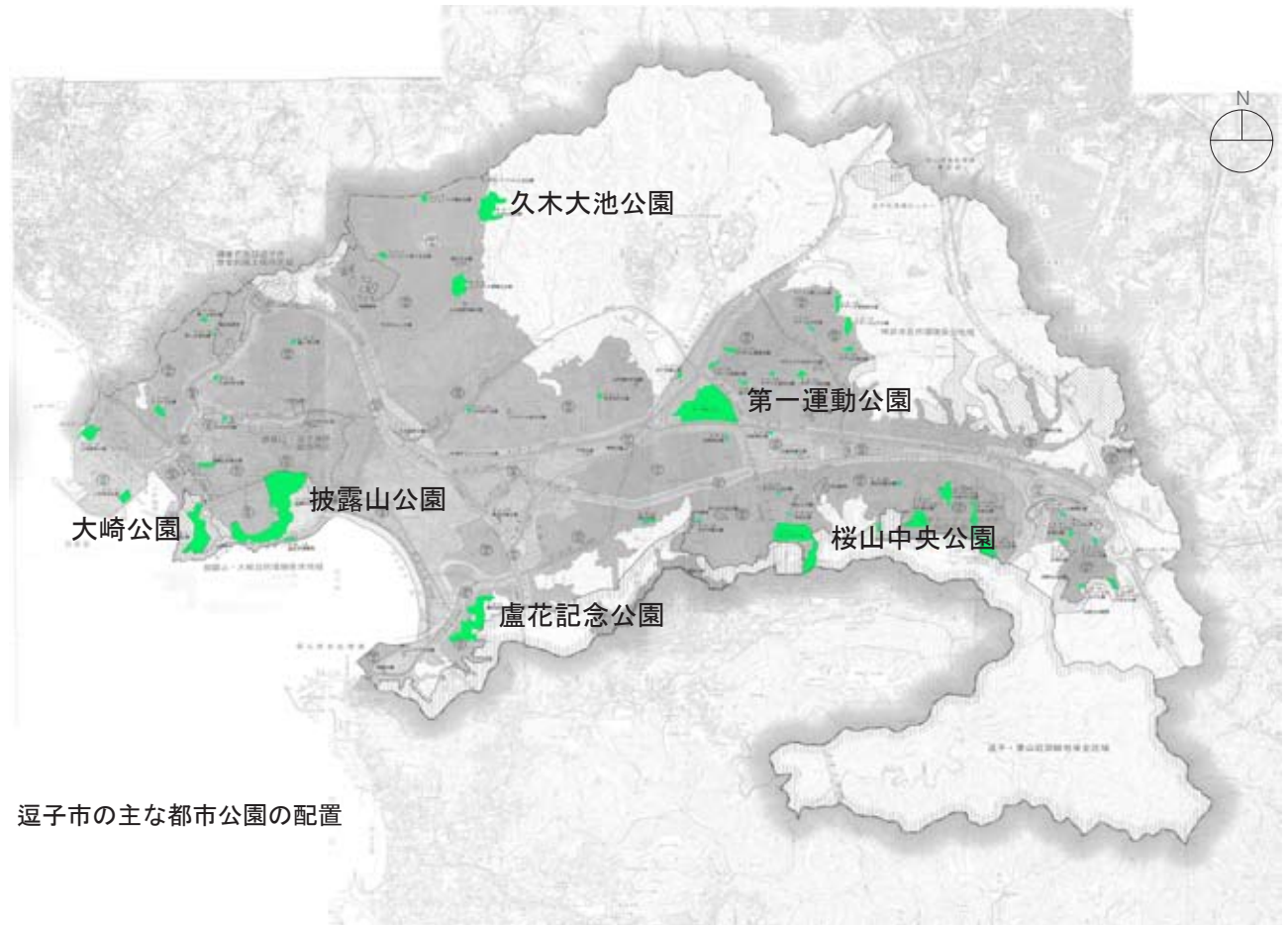
上位関連計画

逗子市総合計画 基本計画（平成20年9月）

逗子市まちづくり基本計画（平成18年1月）

逗子市みどりの基本計画（平成18年3月）

上記関連計画などで決められている、自然環境と調和した水と緑豊で、将来的都市構造に適合した公園再整備計画を進めます。



逗子市の主な都市公園の配置

種別	公園名	面積 (ha)
風致	披露山公園	5.80
風致	盧花記念公園	2.50
地区公園	第一運動公園	5.50
近隣	久木大池公園	1.70
近隣	大崎公園	2.20
近隣	桜山中央公園	3.18
街区公園など	77公園	32.07
合計		52.95

逗子市の都市公園面積



逗子市みどりの基本計画（平成18年3月）

■逗子市防災計画

第一運動公園は、逗子市防災計画において広域避難場所として指定されています。

また、今回新たに計画される施設は災害時のボランティアセンターとして計画されています。

災害時にはこれらの公園機能の転用が円滑に行えるオープンスペースの計画が要請されています。

また近接住宅地からの火災の広がりを防ぐための防火林としての常緑樹の配置なども望まれています。



逗子市防災マップ（資料：逗子市防災マップ）

3. 構造的位置付け

■山と川

逗子市池子地区に位置する計画地は、北西に池子の森、北東に神武寺鷹取山の「大規模緑地」と「斜面緑地」に東西を囲まれた住宅地域にある地区公園です。公園からは山々が望め、公園東には池子川が隣接し、水と緑豊かな逗子の環境を体験できる公園です。

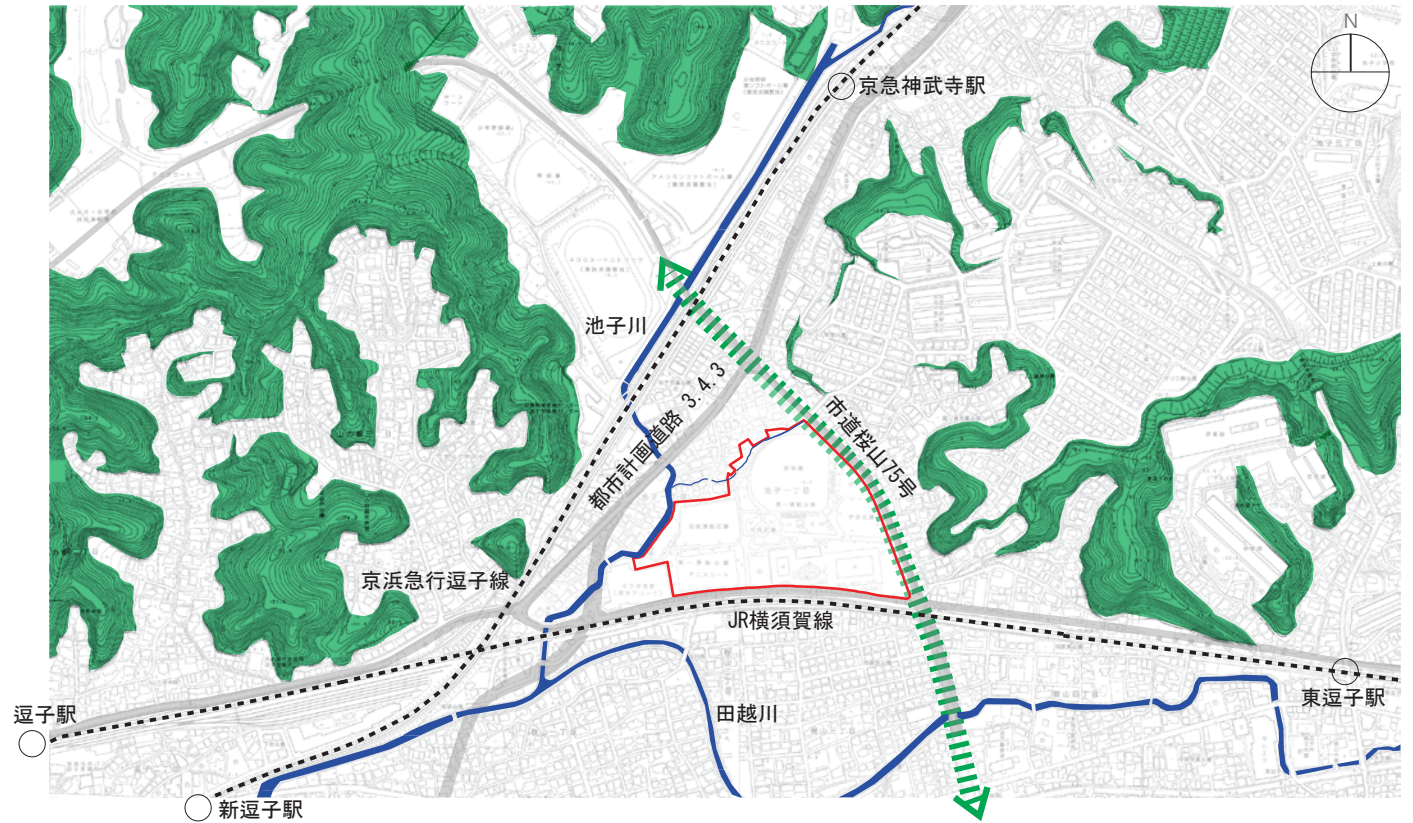
■市道桜山75号

公園東にある市道桜山75号は逗子の「緑の山の手の軸」として重要な道路と認識されます。

■鉄道

公園南にはJR横須賀線、公園東には京浜急行逗子線が走り、公園最寄り駅が1キロメートル以内には、JR逗子駅、JR東逗子駅、京急神武寺駅、京急新逗子駅と4つの駅が存在します。

逗子市内だけに限らず、横浜、鎌倉、横須賀など神奈川県他の街からのアクセスも容易です。



池子地区における自然・都市構造図

4. 敷地分析

■主な周辺道路との関係

- A. JR横須賀線沿い
桜並木が整備され景観上管理が行き届いたエリアである。
近隣住宅地に直接面していない。
- B. JR横須賀線池子踏切交差点
公園南東角にある踏切側の交差点
- C. 公園東側市道桜山75号沿い
桜並木が整備されているが、成育状態が芳しくない。
隣接住宅地に面している。野球場東にある駐車場アクセスが難しい。
- D. 池子川沿いの歩行者空間



A. JR横須賀線沿い



B. JR横須賀線踏切交差点



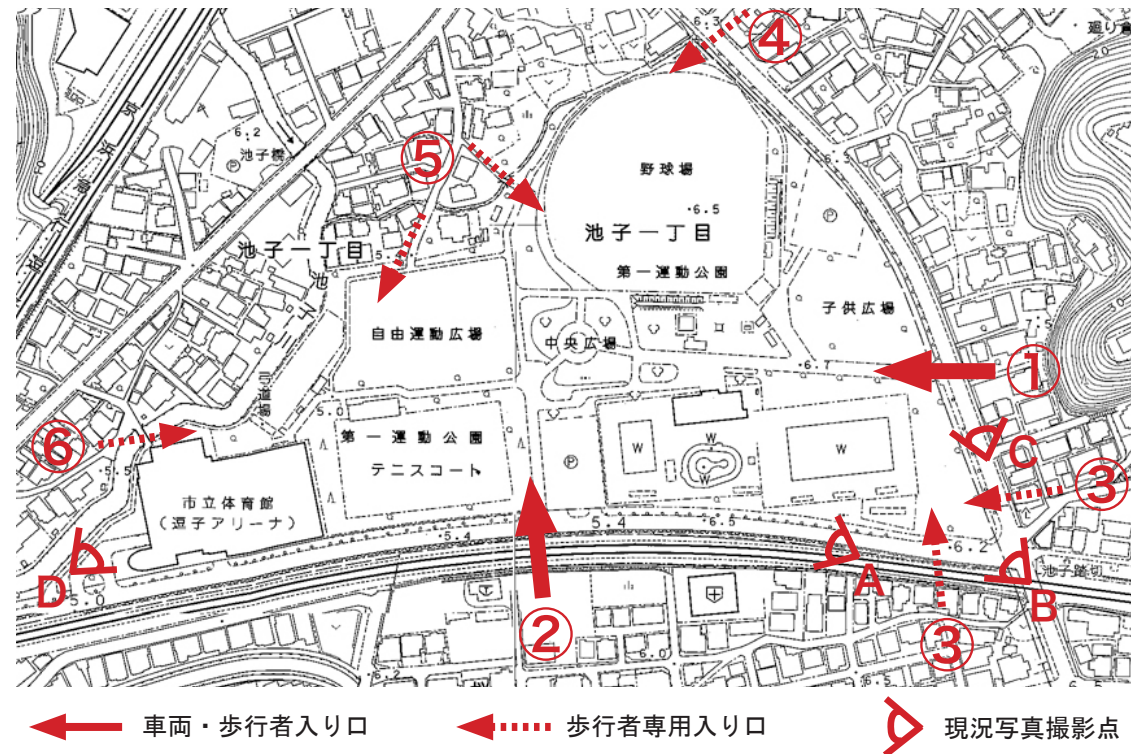
C. 市道桜山75号沿い



D. 池子川沿いの歩行者空間

■主な現況アクセス

- ①公園東川に位置する入り口
- ②公園南側からの主要な入り口
非常時に大型車両の出入り口となる。
- ③公園南東角からの歩行者の入り口
公園のバリアフリー化に対応した整備が望まれる。
- ④公園北東歩行者の入り口
- ⑤隣接住宅地からの公園への歩行者専用入り口
公園のバリアフリー化に対応した整備が望まれる。
- ⑥逗子アリーナと第一運動公園の通り抜け道



← 車両・歩行者入り口

← 歩行者専用入り口

▷ 現況写真撮影点

■主な存在施設と現状

- ①プール施設（有料施設）
50メートル、25メートル、流水プールがあるが、50メートルプールは老朽化のため使われていない。
- ②野球場（有料施設）
防災訓練、非常時にはヘリポートとして使われる。
野球場バックネット裏には公園管理事務所が置かれている。
- ③テニスコート（有料施設）・テニスコート管理事務所
テニスコート管理事務所には体育協会事務所が置かれている。
- ④自由運動広場
多目的な運動広場。
- ⑤弓道場（有料施設）
弓道場、アーチェリー共用施設。
- ⑥テニス練習場（壁打）
- ⑦子ども広場
築山、砂場、鉄棒、ジャングルジムなど。
- ⑧中央広場
日時計と花壇、時計塔が整備されている。
- ⑨駐車場
2カ所の駐車場、合計100台弱。
- ⑩噴水広場
噴水が設置され、樹木が点在している。
- ⑪トイレ
公園全体で3カ所配置されている。
- ⑫京急車両
- ⑬売店・青い鳥
- ⑭公園北側バッファエリア
歩道空間。水路が流れている。あまり活用されていない。

逗子市民祭り

年一回、公園全体を使って行われる。
売店や、様々な体験コーナー、ステージなど
現状施設を多目的に利用して行われる祭り。

■隣接施設

- ⑮逗子アリーナ
体育施設。



① プール施設



② 野球場



③ テニスコート



④ 自由運動広場



⑤ 弓道場



⑥ テニス練習場（壁打）



⑦ 子供広場



⑧ 中央広場



⑨ 駐車場



⑩ 噴水広場



⑪ トイレ



⑫ 京急車両



⑬ 売店・青い鳥



⑭公園北側バッファエリア

5. 利用者ニーズの調査

■文献による事前調査

- ・「逗子市第一運動公園再整備検討準備委員会意見報告書」逗子市第一運動公園再整備検討準備委員会
- ・「逗子市第一運動公園再整備検討準備委員会会議録概要」逗子市第一運動公園再整備検討準備委員会
- ・「平成21年度児童館的施設検討結果報告書」児童館的施設検討子ども委員会
- ・「第一運動公園の災害時の使用」
- ・「逗子市まちづくり基本計画」逗子市

ほか

■逗子市第一運動公園再整備検討委員会第1回～第3回にて意見交換。ヒアリングによる意見収集。

■類似施設の見学調査

<逗子市内類似施設の見学調査>

- ・小坪公民館
- ・市民交流センター
- ・逗子文化プラザホール
- ・逗子アリーナ
- ・逗子小学校
- ・逗子小学校多目的教室（ふれあいスクール）
- ・青少年会館
- ・沼間公民館
- ・沼間中学校

ほか



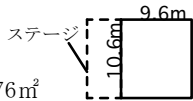

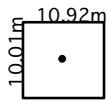

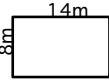

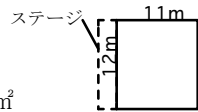

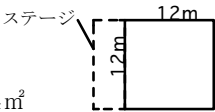

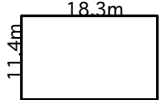

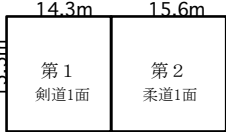

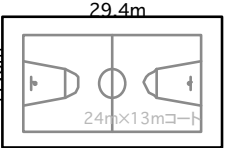

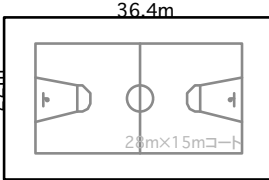

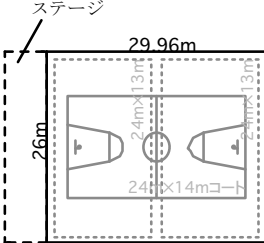

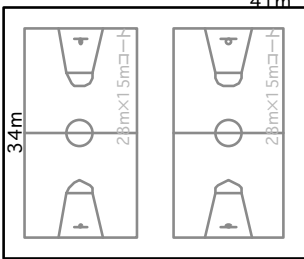

<その他、類似施設の見学調査>

- ・ゆう杉並（東京都杉並区）
- ・八潮児童センター・ティーンズプラザYASHIO（東京都品川区）
- ・洋光台駅前公園こどもログハウス（横浜市磯子区）
- ・滝野川公園（東京都北区）
- ・ルイジアナ美術館（デンマーク）
- ・塩尻市市民交流センター（長野県塩尻市）

ほか

■ 逗子市内の類似施設

※検討対象の室を面積順に作表。S=1/1000

<p>市民交流センター ・ 1F会議室</p> <p>56㎡</p>  	<p>逗子文化プラザホール ・ さぎなみホール</p> <p>101.76㎡</p>  	<p>逗子小学校多目的教室 ・ プレイルーム (ふれあいスクール)</p> <p>109.3㎡</p>  	<p>市民交流センター ・ 1Fロビー</p> <p>112㎡</p>  	<p>小坪公民館 ・ ホール</p> <p>132㎡</p>  	<p>沼間公民館 ・ 講堂</p> <p>144㎡</p>  
<p>青少年会館 ・ 柔剣道場</p> <p>217.02㎡</p>  	<p>逗子アリーナ ・ 第1, 2格技室</p> <p>(第1 213.79㎡) (第2 229.64㎡)</p> <p>第1 剣道1面 第2 柔道1面</p> <p>第1, 2計443.43㎡</p>  	<p>逗子小学校 ・ 体育館 (市民交流センター3F)</p> <p>517.44㎡</p>  	<p>逗子アリーナ ・ サブアリーナ</p> <p>765.78㎡</p>  	<p>沼間中学校 ・ 体育館</p> <p>778.96㎡</p>  	<p>逗子アリーナ ・ メインアリーナ</p> <p>1473.17㎡</p>  

■ その他の類似施設

<p>ゆう杉並 (東京都杉並区)</p> <p>子どもスペース、 児童館施設の管理運営の検討</p> 	<p>八潮児童センター ティーンズプラザYASHIO (東京都品川区)</p> <p>子どもスペース、 児童館施設の管理運営の検討</p> 	<p>洋光台駅前公園 こどもログハウス (横浜市磯子区)</p> <p>乳幼児プレイルーム等、 子どもスペースの検討</p> 	<p>滝野川公園 (東京都北区)</p> <p>ジャブジャブ池等の水辺、 および園内スペースの検討</p> 	<p>ルイジアナ美術館 (デンマーク)</p> <p>点在している建築と ランドスケープとの関係検討</p> 	<p>塩尻市市民交流センター えんぱーく (長野県塩尻市)</p> <p>最新事例、ロビーやラウンジ の使い方を検討</p> 
--	---	---	---	--	--

第3章 再整備基本計画

1. 公園全体の再整備計画の方針

1-1 逗子の自然環境・住環境に 調和した公園再整備

逗子市は市街地を取り囲む三方の山々と、青い海、その山と海をつなぐ川とで構成されています。

山から流れる水が織りなす谷、それが水と緑豊かな変化に富んだ住環境をつくりだしてきました。第一運動公園再整備計画も逗子の自然環境と住環境の調和を図り、かつ地域に開かれた施設として計画します。



逗子の大地の構造と第一運動公園の位置関係



神武寺から第一運動公園を見る

1-2 空間基本コンセプト

■緩やかな起伏のある公園

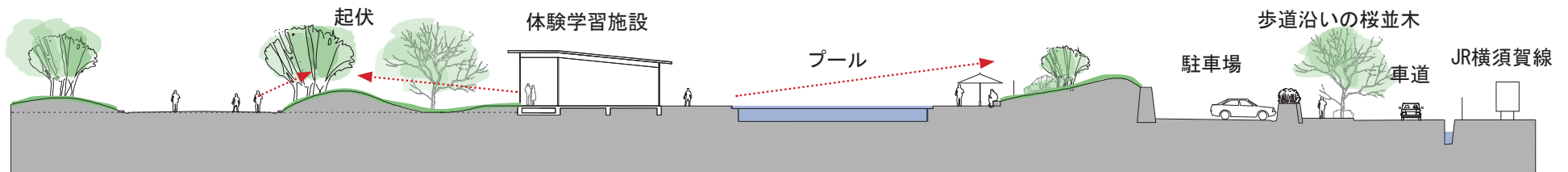
第一運動公園を逗子の地形的特徴である谷戸の一端と位置付け、その特徴を増幅することで緩やかな起伏が連続する公園全体の新たな風景をつくりだします。

この起伏は公園内の様々な施設空間を緩やかに区切りながらも、ゆったりと公園全体の空間をつなげ、人々の動きに伴って変化のある新たな公園空間を創出します。

この起伏のなかに、新たに計画する体験学習施設、再整備するプール、子ども広場、野外ステージなど、公園を利用するさまざまな人々が集い、行き交う場所を配置します。

緩やかに区切られた谷戸空間をつなぎ、外部空間と内部空間をつなぐ屋根を公園の風景の中に挿入します。大地の起伏の上に軽やかに走る屋根との対比が新たな公園の風景をつくりだします。

この「渡り廊下」が内部空間と外部空間をつなげ、施設利用の多様性、回遊性、季節の変化にともなう空間の可動性を公園の中に与えます。



起伏と諸施設の基本断面図

起伏は公園内の様々な施設空間を緩やかに区切りながらも、ゆったりと公園全体の空間をつなげます。

■水と緑と風の公園

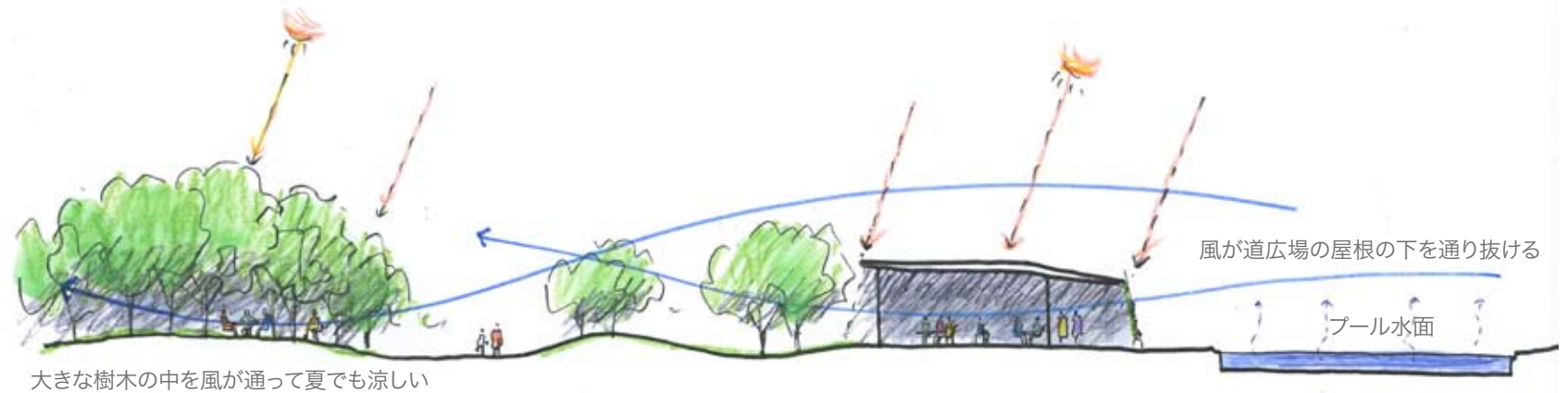
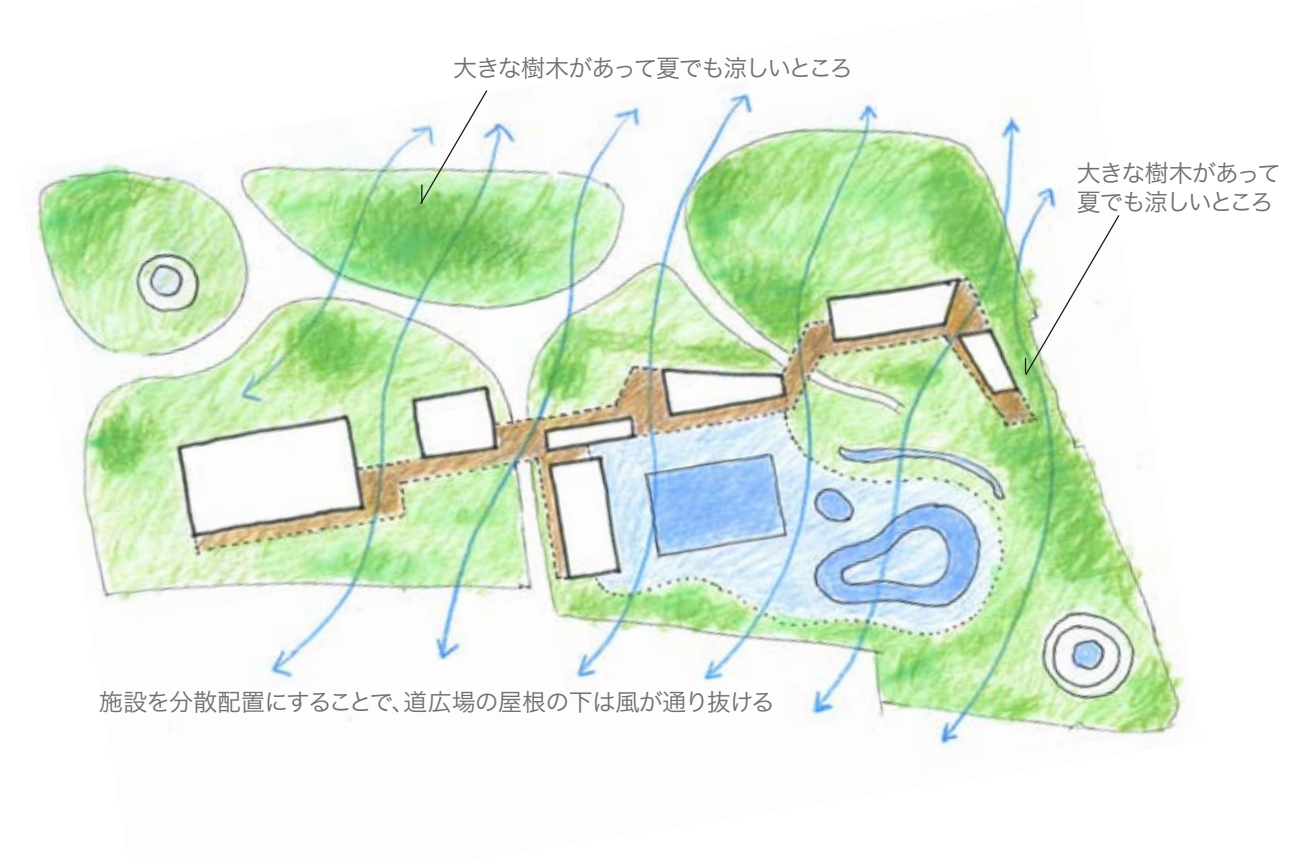
逗子の気候や周囲の景観を活かす

この公園は、逗子の山々、広い空に見守られています。

その豊かな自然を感じながら、暮らしている環境、景観づくりが重要と考えます。そこで本計画では以下の点に特に配慮をしました。

- ・低層の平屋に抑え、まわりの自然を借景とし、豊かな景観をつくります。
- ・分棟とすることで、夏場にも豊かな自然の風が通り抜け、空調設備等に依存しない逗子ならではの快適な環境の居場所をつくります。

公園施設で遊ぶ子ども達が意識せずとも、いつも山の緑と、大きな環境の一部であることを感じながら、のびのびと健やかに育っていける、そんな公園の計画です。



1-3 公園全体の空間構成

緑地空間

公園の北西には池子川が流れ、公園北側には神武寺山系から流れ込む小川が存在しています。

それらの川、小川を身近な物として感じられる緑地・親水空間を運動公園の中に整備し人々が日常生活のなかで活用でき、同時に公園北に隣接する住宅エリアとのバッファゾーンとしての緑地帯を計画します。

この緑地空間は「逗子市まちづくり基本計画」の方針の一つである、「いのちの森」の推進場所の一つとしても計画します。

交通空間

第一運動公園への主要な車のアクセスはJR横須賀線沿いに設定し、災害時の主な大型車両の入口は図に示す②の位置に計画します。

公園南側に駐車場を配置します。

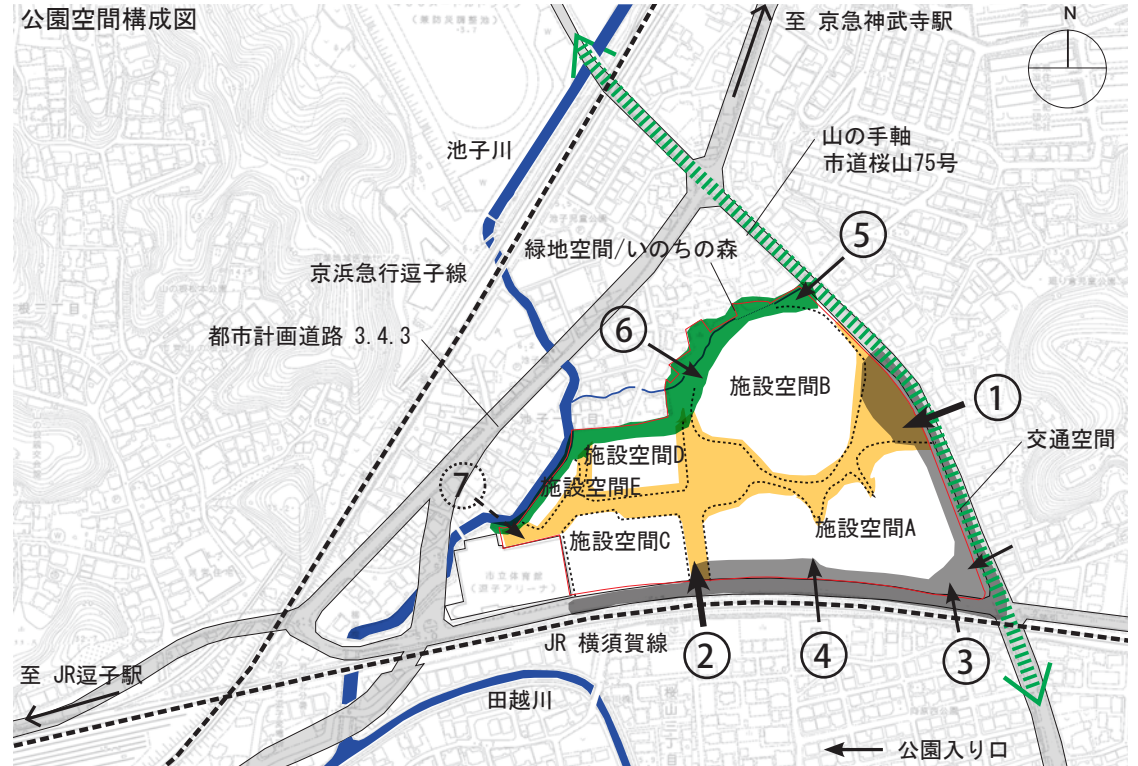
基幹空間

運動公園に存在する施設・機能を区切りながらも、公園全体をつなぐオープンスペースとして計画します。

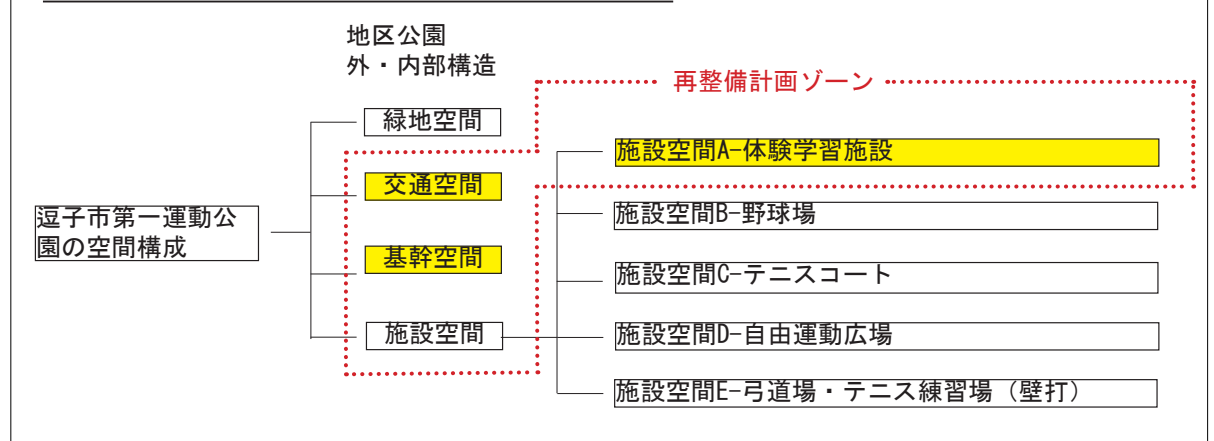
この基幹空間は、公園に求められる施設空間機能の変化や多様化、あるいは災害時の機能転用を円滑に行うフレームとして計画しています。

施設空間

公園内には既存の野球場、テニスコート、弓道場等があり、プールを再整備し、体験学習施設を新設します。



逗子市第一運動公園再整備基本計画の空間構成チャート



1-4 緑地空間

■公園緑地空間の将来的整備・管理

逗子の重要な自然環境の一つである「水と緑」、それらはつながりあるものです。

「逗子市まちづくり基本計画」の方針の中には、

- ・水と緑の回廊プロジェクト
- ・逗子本来の自然環境と、近隣住民の命を守る防火林としての 常緑広葉樹の森（いのちの森）を育成させること。
- ・子ども達が遊べる多様ないのちを育む川づくり

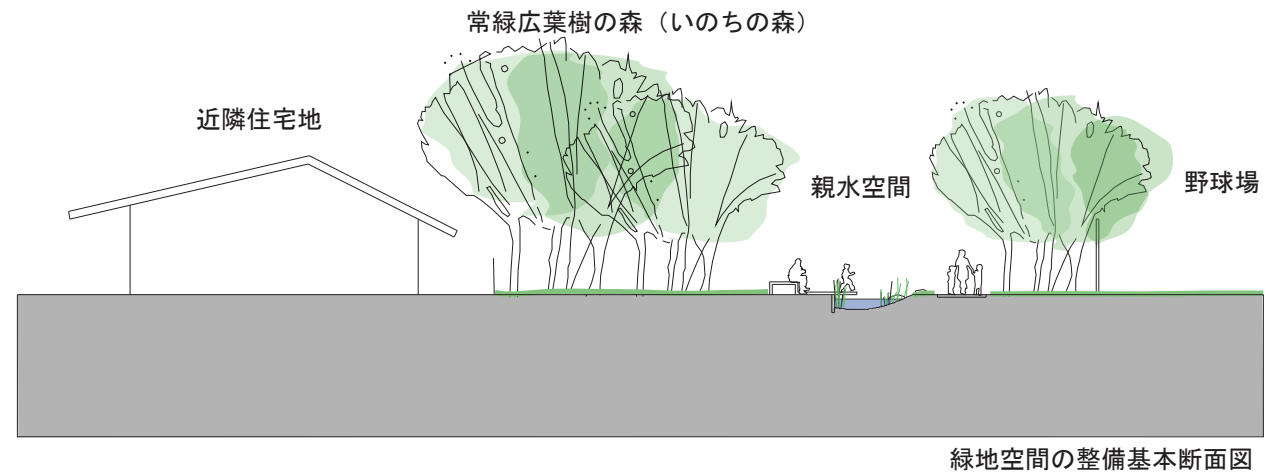
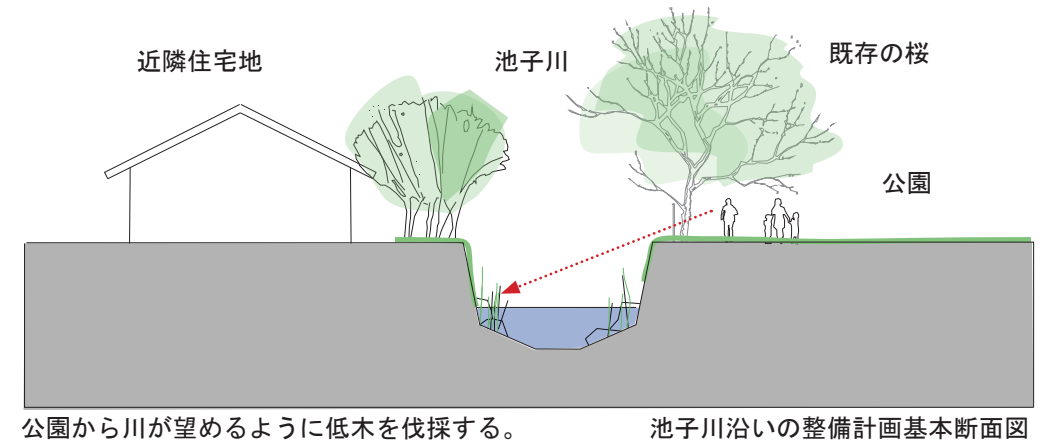
などがあげられています。

第一運動公園もこの方針に則り、再整備、管理されることで、公園整備のみならず、逗子市全体のまち並み、住環境整備の一端として整備・管理します。

公園内部から池子川が体感できるように公園の東側の境界の植栽管理を行います。低木を伐採し既存の大きな桜を生かしたエリアとして管理します。

公園北側の直接住宅地に面した場所には、せせらぎが流れています。このエリアを親水性を高めた緑地空間として整備します。水性動植物の学習の場所としても活用され、体験学習施設とあわせて逗子の自然を身近に学べる場所として管理運営することを提案します。

また、この場所は常緑広葉樹の森（いのちの森）を育成する場所とします。これは広域避難場所として指定されている公園への火災の広がりを防ぐ防火林としての機能を持っています。



■ 植栽計画

植栽は、大きな既存樹木を極力残した緑豊かな公園とし、新たに植えられる植物については逗子らしい植物、在来植物を植えて、周囲の山々、自然環境と調和する公園となるよう計画します。

-  既存樹
-  新植樹







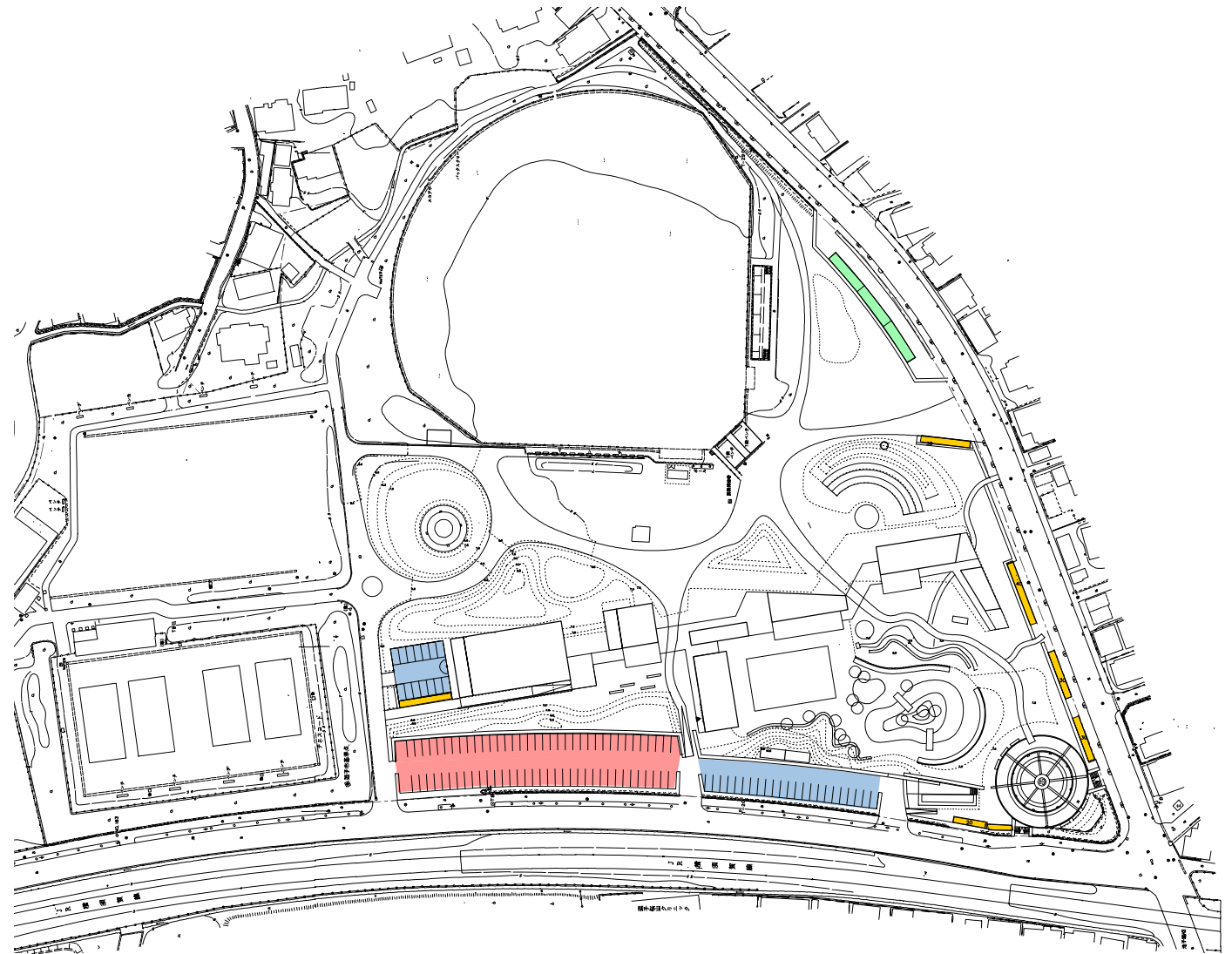
1-5 交通空間

■ 駐車場及び駐輪場整備計画

駐車場をJR横須賀線沿いに配置することで公園のあらゆる施設へのアクセスが容易になります。また、公園東側の近隣住宅地への騒音、交通量の緩和が図られる提案です。

駐輪場は公園の外周に設置し、公園内は安心して歩ける空間とします。公園東側の既存樹木の中に目立たない形で配置します。

-  自家用車駐車場（常時用）：73台
-  自家用車駐車場（夏期用）：37台
-  大型バス：3台
-  駐輪場：250台



1-6 基幹空間・施設空間

公園が持っている、人々の時間的・歴史的記憶を残した既存施設を生かしながら新たにつくられるものが加わることで、古いものと新しいものと
のコントラストが生まれます。

第一運動公園が逗子の歴史の文脈の一つとなり、未来につながっていく
ものとして計画します。

■再生されるもの

噴水広場

今ある噴水広場の改修を行い、木立の中の水広場として再整備します。

日時計

日時計とその周りを整備する事で公園の中の一つのエレメントとして生
まれ変わります。

売店・青い鳥

売店を通して公園に賑わいを与えています。改修を行うことでさらに良
いものとなると考えます。

京急車両

公園のシンボルとして、また子ども達の遊び場としてなるべく残してい
けるよう改修を検討します。

■新しく創られるもの

緑の起伏

新たに整備される緑の起伏は多目的に使えるオープンスペースです。
新たに創られる体験学習施設の緑のカーペットです。そこには木々も植
えられ木陰を作り出し周りの山々と一体となり一つの逗子らしい風景を
つくりだします。

子ども広場

住宅地に近い公園東側に配置し、濾過した水が流れるジャブジャブ池
や幼児用広場、既存の大きな木を生かした遊び場などを計画し、年齢層
の違う子ども達がフレキシブルに遊べる子ども広場をつくります。

野外ステージ

子どもの遊び場、ダンススペース、市民祭りなどのイベント、野外音
楽コンサートなどに使うことができる多目的なスペースです。

プール

25メートルプール、流水プール、幼児用プールを新しく整備します。

駐車場

公園利用が増える夏の時期などは駐車場として使用し、それ以外の
時は多目的に使える2つの広場です。例えば多目的大ホールの西側はバ
スケットボールの3オン3や、ダンスの練習場所などにも使われます。
プール南側はローラースケートや、ダンス、あるいはラジコンを走らせ
たりすることができる細長いスペースです。災害時には資材置き場など
にも利用可能なスペースです。

大型駐車場

公園東に長細く配置し、野球場と駐車場の間に広場をつくります。

駐輪場

自転車で公園に気軽に来れるように、公園の周囲に点在させて配置し
ます。

ドッグラン

木立のなかを犬が自由に走り回れるスペースです。

1-7 配置計画



2. 施設計画の方針

2-1 理念

■開かれた交流の場

市の中心的な位置にある第一運動公園内に、青少年の健全育成を主体とし、子どもからお年寄りまで、ふれあいを中心とした様々な活動が体験できる施設を設置します。

起伏を持つランドスケープの中に体験学習施設を6つの棟に分けて配置します。施設は平屋建てで、一番天井の高い多目的室5は少しだけ地面の中に埋まっています。

各施設を結ぶ1本の道が公園を東西に渡り、そこには連続した屋根が掛かります。緑の起伏と、地面から浮いた連続屋根の対比は公園に新しい風景をつくりだします。

この道広場は施設をつなぐという機能だけに留まりません。内部と、外部である公園との中間の領域として夏は日を遮り、冬は陽だまりとなり、雨の日には外部で活動できる場所を提供します。

6つの施設の外装には自然の木を張りたいと考えています。手触り感があり、経年による色の変化を楽しませてくれる大きな木の箱が、公園の緑の中に点在して、そこには開口部が大きく放たれ、そこでの活動はよく見えます。

ここには目的を持ってやって来る人もいるでしょうし、休日にふらりと足を運ぶ人もいることでしょう。目的の有る無しにかかわらず、全ての年代の人々がここで顔を合わせ、挨拶を交わし、色々な人達の活動を共存できる、そのような建築が望まれていると考えます。ここは閉じた場所ではなく、公園と建築、そして人と人を緩やかにつなぐ、開かれた交流の場です。この交流の場である体験学習施設を通して、公園全体の活性化を図ります。



受付、ラウンジを望む

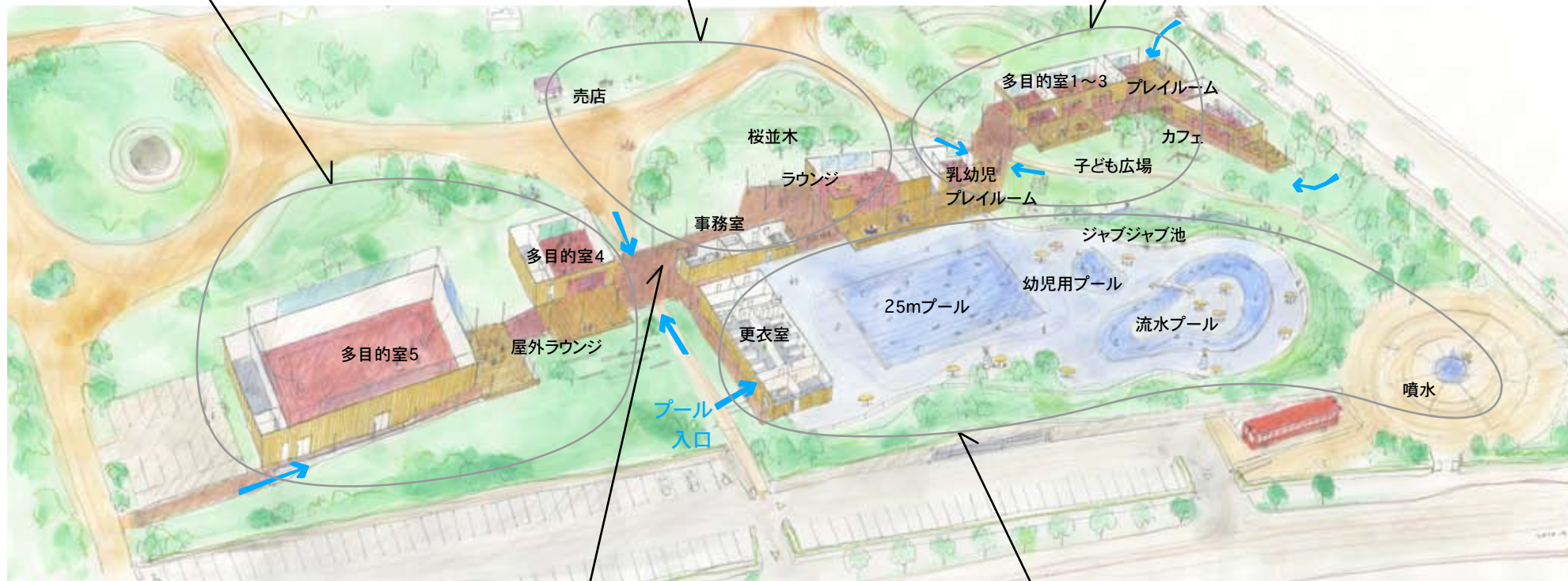
2-2 施設全体計画

■施設ソーニング

多目的室4~5エリア
 多目的室4、多目的室5は、住宅地からはなれたエリアに配置することで地域への圧迫感を軽減します。また、この2つの部屋の間には屋外ラウンジを設け、休憩にも、部屋の延長としても利用できます。

体験学習施設の受付エリア
 事務室やラウンジが、既存の桜並木とともに迎えてくれる受付エリアです。公園内の売店からも近く、ふらりと立寄ることのできるエリアです。

子ども広場を囲むエリア
 乳幼児プレイルームやプレイルーム、カフェを子ども広場に面して囲むように配置します。木々に見守られた落ち着いた空間でもあり、道広場を介して子どもたちが自由に遊び回れるエリアです。



道広場ゾーン
 各エリアを緩やかにつなぐ1本の道でもあり、広場でもあるゾーンです。外部空間と対話しながらさまざまな居場所をもたらし、自由にくつろいだり、親同士や異世代の自然な語らいの場となります。

水辺エリア
 3つのプールは有料で楽しむエリアです。また、近くにジャブジャブ池を配置し、既存の噴水も復活させることで、プールのにぎわいを感じながら遊ぶことができます。

→ … 建物への主なアクセス

■ 近隣住民への配慮

大きなボリュームの多目的室5を逗子アリーナ、テニスコートから連続する敷地西側に配置し、地面に少し埋めることで圧迫感を抑えます。また駐車場を線路側に計画することで、住居エリアへの騒音を抑えます。

■ メンテナンス性、経済性

平屋の施設を道広場をつなぐというシンプルな構成ゆえに構造も複雑にならず、各棟は小規模建築対応で建設ができます。分棟ゆえに、機械空調も棟ごとの必要に応じた使用が可能で、ランニングコストの削減に寄与できます。ひさしが出るデザインなので熱負荷を小さくすることができます。機械空調設備を軽減でき、ランニングコスト費用を低く抑えることに寄与します。また、建物の維持管理も容易です。デザインと経済性を両立させた建物です。



カフェから子ども広場、プールを望む

2-3 施設平面計画

0m 10m 25m



2-4 施設諸室計画

■多目的室1～3

逗子の地産植物の調理や工作など、様々な体験のできる部屋です。子ども広場を囲む位置にあり、可動間仕切りによって3室に分割することができます。調理、工作の他にも、学習、講習、会議、講演、ダンスなど多彩な体験ができる部屋です。

■多目的室4

ダンスの練習や発表、音楽の練習や発表、集会などに使える簡易防音仕様の部屋です。数人のグループによる音楽活動は、その練習や演奏を通して利用者の交流を深めるとともに、お互いに切磋琢磨することによる新たな音楽の創造という体験学習ができます。南側には木の床が張られた屋根の付いた屋外ラウンジがあり、更にその先には外部の広場が続きます。

■多目的室5

大人数・多世代による講演・講座などのための部屋です。運動体験や雨の日の青少年の居場所ともなる他、多世代が交流することで、逗子の郷土史の後継、郷土愛の育成の場としても期待できます。天井の高い大きなボリュームの施設なので、住居エリアから最も離れたテニスコート側に配置し、圧迫感を押えるために地面に少し埋め込まれています。駐車場入り口付近のレベルは、床レベルとほぼ同じになるため、駐車場からもアクセスできます。

■乳幼児用プレイルーム

多目的室1～3やプレイルーム、カフェなどとともに、子ども広場を囲むように乳幼児用プレイルームを配置します。子ども広場にも出入りしやすいようにし、内部と外部を楽しむことができます。授乳、おむつ替えスペースも備えます。

■プレイルーム

子ども広場を囲んでプレイルームが2カ所計画されています。1カ所は木の床が張られた屋外ラウンジ付きです。お弁当を食べたり、雨の日でも身体を動かせたり、のびのび遊べる開放的な場所です。

■ラウンジ

桜並木に面し、施設の受付や公園内売店からも近い場所にあるフリースペースです。中高生が学習室としても利用できます。南側には木の床が張られた屋外ラウンジがあり、季節のいいときには屋内ラウンジと一体的な利用が可能です。

■管理諸室

東西に細長い施設のほぼ中央に事務室、医務室、集会室があります。事務室は体験学習施設全体の管理を行います。

■更衣室等

更衣室、トイレを計画します。更衣室にはシャワー、パウダーコーナーを備えます。

■トイレ

プール用トイレとは別に、計2カ所の一般用トイレを計画しています。多機能トイレは1カ所計画しています。このほか、公園内にこれまでであった2カ所のトイレ（野球場ベンチ付近及び野球場西側）は撤去し、新たに多機能トイレの備わったトイレを1カ所計画しています。

■道広場

東西に伸びる屋根付きの道広場は6つの施設をつなぐという機能だけではなく、内部と外部の中間に位置する空間として重要な役割を果たします。

この体験学習施設はメインエントランスを持ちません。道広場は公園のいたる所からアクセス可能で、そこから6つの施設につながっていきます。つまり八方に開いた道広場が施設のエントランスと言えます。道広場は公園と施設を緩やかにつなぐ役割を持っています。

また、屋根のある道広場は、夏の猛烈な暑さを遮断し、冬の光を導き入れるひさしとしての役割を持っています。それは各施設の熱負荷を軽減し、設備コストの軽減に寄与します。

道広場の床は全て同じ材料ではありません。気持ちの良い屋外空間を楽しめるよう床に足触りのいい板が張られた道広場ラウンジが点在します。

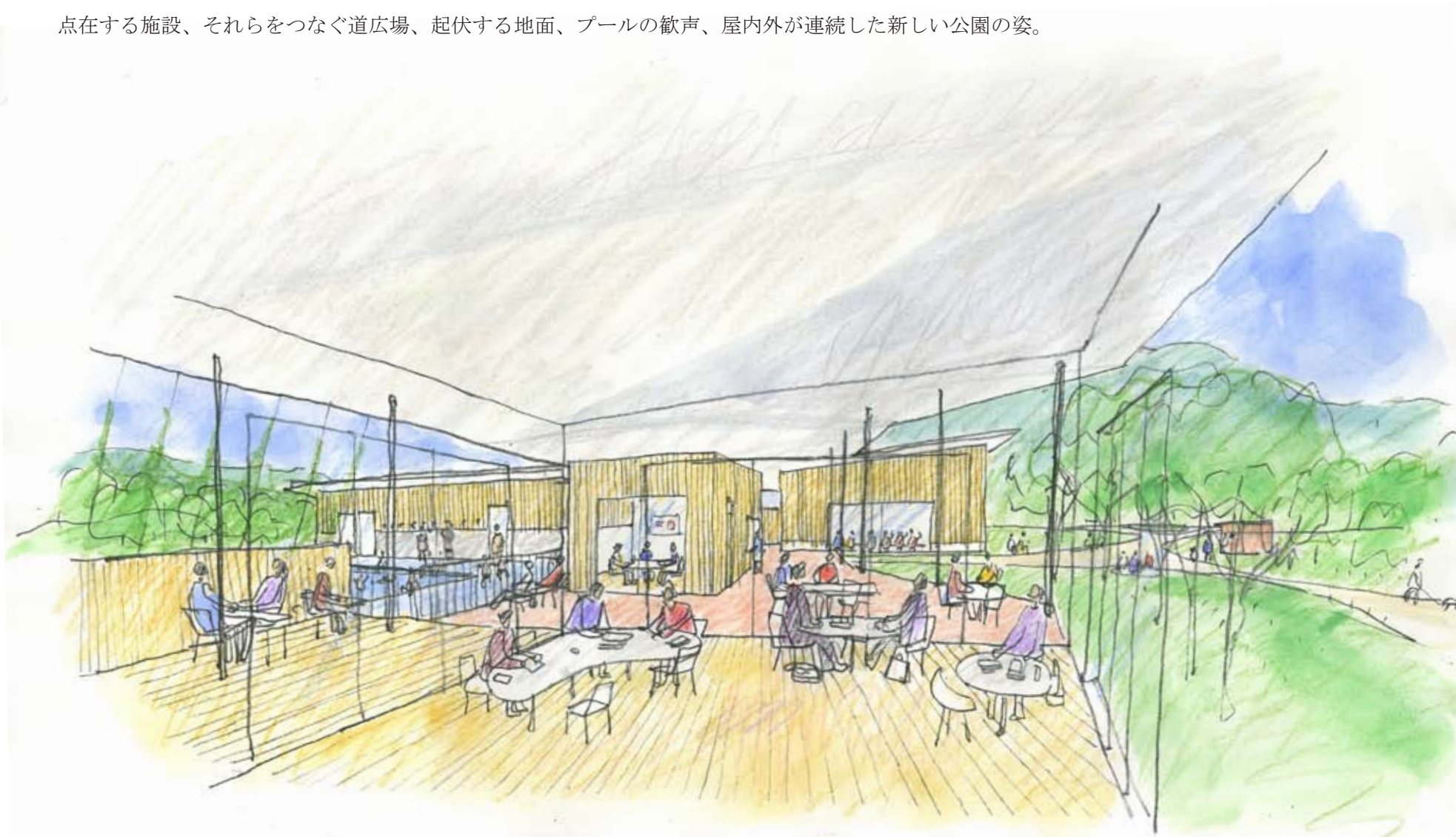
道広場は公園に足を運ぶ様々な年代の人が自由に使えるふれあいの場所であり、そうした人たちに自然な語らいの場を提供します。

2-5 施設規模検討

基本計画案			
室名	主な用途	面積	備考
多目的室1～3	学習、講習、調理、工作、 会議、講演、ダンス等	150 m ²	間仕切り使用時：3室×会議30名程度 給湯室に隣接
多目的室4（簡易防音）	ダンス、音楽、ミニコンサート、 式典、講演、スポーツ等	130 m ²	間仕切り使用時：2室×会議48名程度
多目的室5	講演、講座、スポーツ、ダンス、 式典、ミニコンサート等	540 m ²	バスケット使用時：ミニコート1面 バドミントン使用時：コート3面
乳幼児用プレイルーム	乳幼児の遊び場	30 m ²	授乳、おむつ替えスペース設置
ラウンジ・プレイルーム	利用者がくつろげる自由な屋内スペース 子どもが専用できるスペース	160 m ²	
道広場	利用者がくつろげる自由な屋外スペース	※470 m ²	※道広場法定床面積 470m ² (道広場全体の面積 870m ²)
カフェ	利用者がくつろげるスペース 喫茶、飲食	40 m ²	厨房設置
管理諸室	体験学習施設全体の管理運営事務室 打合せ、応接、相談等	50 m ²	
プール管理施設	管理事務室、医務室、シャワー室、 ロッカー・更衣室、トイレ、多機能トイレ	250 m ²	
その他	給湯室、倉庫、 トイレ、多機能トイレ、PS等	180 m ²	
合計		2,000 m ²	

2-6 施設パース

点在する施設、それらをつなぐ道広場、起伏する地面、プールの歓声、屋内外が連続した新しい公園の姿。



ラウンジからの風景

3. 公園としての機能を高める

3-1 防災機能の充実

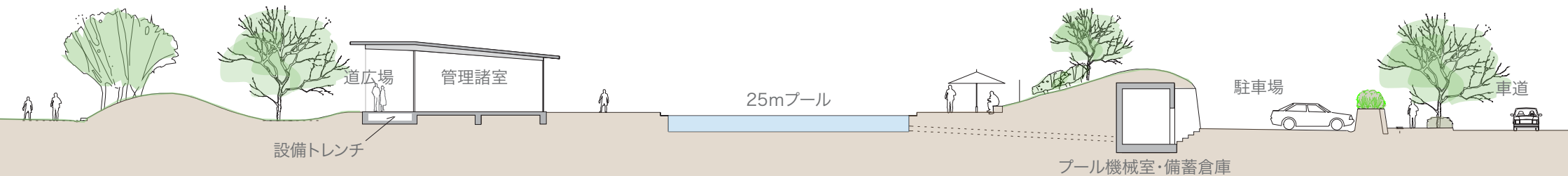
■公園内計画

- ・第一運動公園は逗子市の防災計画において、広域避難場所に指定されており、防災機能の一層の充実が求められています。
公園内に新しく防災倉庫を設けるとともに、非常時に様々な公園施設の転用が円滑に行われるための「空地」としての基幹空間を設定します。
- ・災害時には、公園内に大型車両が通行するので、園路の一部は大型車両対応の舗装とします。
- ・新たに計画される施設空間は、災害時にはボランティアセンターとして転用される計画です。
施設計画はボランティアセンターへの転用が容易なフレキシブルな施設構成になっています。
- ・公園北側は住宅地と接しており、非常時の防火林としての緑地帯の整備を進めます。
逗子市が計画する「いのちの森」（常緑樹の森）を配置し、防火林としての役割を持たせます。
- ・土塁に囲まれた公園南に配置される駐車場は非常時の資材置き場への転用が可能です。
- ・プールの水を防火用水等として利用可能です。

■施設計画

- ・平屋建ての6つに分けられた棟をボランティアセンターの拠点として活用します。
- ・この施設は大地震が発生した場合であっても、本来の機能を維持しなければなりません。
地震に対する安全性をより高めるために、構造設計に際して、施設の用途に応じて耐震性能を割増すための用途係数を採用します。
具体的には標準の1.0に対し、最高級の1.5（市庁舎、消防署などと同等仕様）を基準とし、設計します。

各棟をつなぐ屋根のかかった屋外空間である道広場は、広範囲にわたって外部に面することができ、伝達機能に優れ、物資の供給もスムーズに行えます。



3-2 バリアフリー化

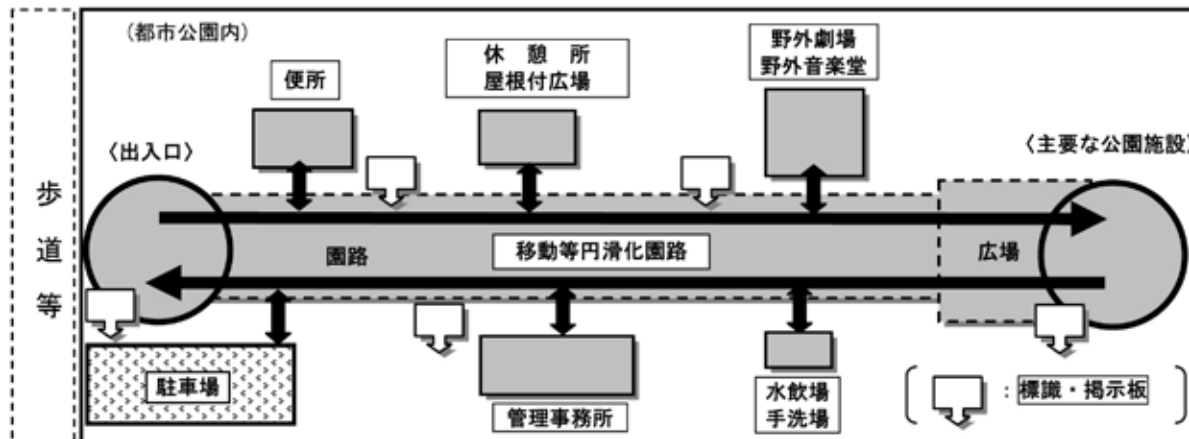
■公園内計画

- ・都市公園移動等円滑化基準に適合させます。
- ・周辺道路と公園の段差をなくします。
- ・公園全体の主要園路は障がい者、お年寄りの方、ベビーカーなどが通行しやすい舗装とします。
- ・多機能トイレの整備を行います。

■施設計画

- ・施設をつなぐ道広場のレベル差が生じる箇所はスロープとし、手すりを設けます。
- ・公園から施設への出入り口、材質が変わる箇所などは段差が生じないように計画します。
- ・公園内に1カ所、体験学習施設内に1カ所多機能トイレを設けます。
- ・25メートルプールにはスロープを設けます。また多機能更衣室も設けます。

特定公園施設との接続の概念図



(資料：国土交通省／都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン)

3-3 新エネルギーの利用検討

■機械空調に頼らない、自然を生かした快適な環境づくり

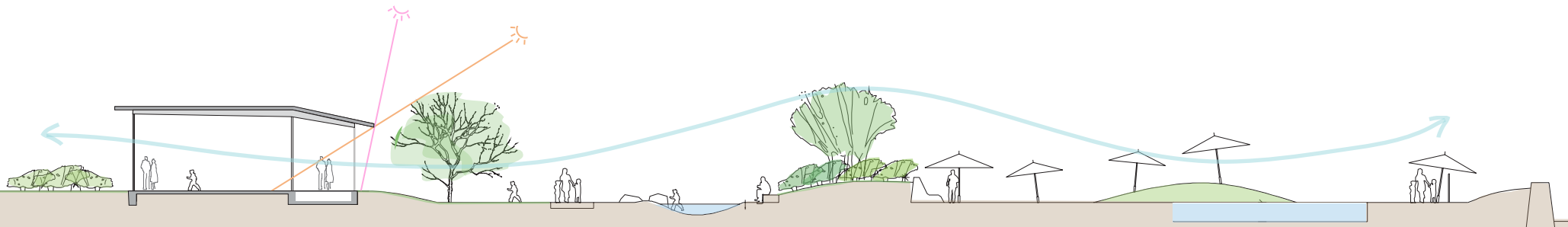
今回の施設計画では、東西に長く伸びる大きな屋根を中心として、それぞれの建物を配置しています。この建物配置は、太陽光や自然風を最大限に有効利用するための建物配置としています。夏季の猛暑日には、ひさしによって太陽の日射を抑え、暑さを和らげる効果があるとともに、冬季は太陽光の恩恵を最大限受け、陽だまり空間をつくりだすことができる施設計画です。また、南北に向けられた開口部からは、夏期には自然の涼風を導き、自然風による心地よい涼しさを感じとることができます。本来、エアコンが無かった時代の日本家屋の知恵を施設計画に積極的に反映させています。これにより機械空調に頼らずとも夏季は涼しく、冬でも晴れた日は暖かいといった環境づくりを目指しています。

■CO2の排出削減など環境負荷の低減に配慮し、自然エネルギーの有効活用を図ります。

またこれらは、災害時の代替エネルギーとして利用します。また、*CASBEEのSランクを目指した建物とします。

- ・太陽光発電の採用
太陽光発電を利用した低エネルギーな照明を採用します。
- ・雨水利用
建物ピットに雨水を貯留し、中水として、屋外の散水用や災害時の非常用水としての利用を図ります。
- ・冷暖房負荷の低減
建物断熱性能は次世代省エネルギー基準に従い、換気機器は濃度によるCO2外気導入制御を採用します。
- ・省電力化
照明器具はLEDや高効率照明器具を採用し、省電力化を図ります。
- ・空調方式
多目的室5は、ランニングコスト、イニシャルコストの面より地中熱利用の空気式床輻射冷暖房方式を検討します。それ以外の諸室は個別のヒートポンプ式冷暖房方式とします。

*「CASBEE」とは、建築物の環境性能で評価し格付けする手法です。建築物総合環境性能評価システムの略。



4. 利用者数の予測

■屋外プール

過去3年間の第一運動公園プール利用者を参考にする
 ※開催日数は、77日(7/1~9/15)である

・平成19年度	年間利用者数	約3.2万人、	1日平均者数	約410人
・平成20年度	年間利用者数	約3.0万人、	1日平均者数	約390人
・平成21年度	年間利用者数	約2.7万人、	1日平均者数	約350人

再整備による利用者数増加を1.2倍と推定し、過去3年間の平均値に掛ける

$$\begin{aligned} \text{1日平均者数} & (410 + 390 + 350) \div 3 \times 1.2 = \text{約}460\text{人} \\ \text{年間利用者数} & (3.2\text{万} + 3.0\text{万} + 2.7\text{万}) \div 3 \times 1.2 = \text{約}3.5\text{万人/年} \end{aligned}$$

■体験学習施設

※休館日を逗子アリーナと同じ(月曜日、年始年末)と想定し、年間約310日の開館と設定

【多目的室1~3】

利用者想定数を90人※1、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 90\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}108\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 108\text{人} \times 310 = \text{約}33,480\text{人/年} \end{aligned}$$

※1 会議利用時、3室間仕切りの1室につき、
 テーブル10台に各3名着席と想定。10×3×3室=90名

【多目的室4】

利用者想定数を20人※2、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 20\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}24\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 24\text{人} \times 310 = \text{約}7,440\text{人/年} \end{aligned}$$

※2 ダンス利用時を想定。

【多目的室5】

利用者想定数を30人※3、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 30\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}36\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 36\text{人} \times 310 = \text{約}11,160\text{人/年} \end{aligned}$$

※3 スポーツ利用時を想定。
 バスケットボール：チーム10人+チーム10人+傍観10人=約30名
 卓球練習：12台×2人+傍観6人=約30名

【カフェ】

利用者想定数を15人※4、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 15\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}18\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 18\text{人} \times 310 = \text{約}5,580\text{人/年} \end{aligned}$$

※4 レイアウト席数により想定。

【ラウンジ】

利用者想定数を50人※5、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 50\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}60\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 60\text{人} \times 310 = \text{約}18,600\text{人/年} \end{aligned}$$

※5 レイアウト席数により想定。

【プレイルーム】

利用者想定数を21人※6、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 21\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}25\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 25\text{人} \times 310 = \text{約}7,750\text{人/年} \end{aligned}$$

※6 一人当たり約2畳(=3.3㎡)使用すると想定。70㎡÷3.3㎡=約21人

【乳幼児プレイルーム】

利用者想定数を9人※7、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 9\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}11\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 11\text{人} \times 310 = \text{約}3,410\text{人/年} \end{aligned}$$

※7 一人当たり約2畳(=3.3㎡)使用すると想定。30㎡÷3.3㎡=約9人

【道広場】

利用者想定数を20人※8、稼働率60%、
 1日あたりの回転数を4回、回転率50%、と想定

$$\begin{aligned} \text{1日平均} & 20\text{人} \times 60\% \times 4\text{回転} \times 50\% = \text{約}24\text{人} \\ \text{年間利用者数} & 24\text{人} \times 310 = \text{約}7,440\text{人/年} \end{aligned}$$

※8 他の部屋を使用した人が、重複して道広場を使用する事が考えられるため、
 そうした重複人数ではなく、道広場を単独で利用した人数として想定。

■施設全体の利用者数予測

		年間利用者数		1日平均利用者数	
屋外プール		約 3.5万人		約 460人	
体験学習施設	多目的室1～3	約 3.3万人	約 9.2万人	約108人	約 306人
	多目的室4	約 0.7万人		約 24人	
	多目的室5	約 1.1万人		約 36人	
	カフェ	約 0.5万人		約 18人	
	ラウンジ	約 1.8万人		約 60人	
	プレイルーム	約 0.8万人		約 25人	
	乳幼児プレイルーム	約 0.3万人		約 11人	
	道広場	約 0.7万人		約 24人	
合 計		約 12.7万人		約 306人 (プール開催期間 約 766人)	

逗子市第一運動公園再整備検討委員会

委員長	富田 邦衛	(社会福祉法人逗子市社会福祉協議会)
副委員長	柏村 宗巨	(池子区会)
	國松 敬子	(公募の市民)
	斉藤 陽子	(公募の市民)
	松永 繁之	(財団法人逗子市体育協会)
	石黒 大地	(児童館的施設検討子ども委員会)
	岡部 葵	(児童館的施設検討子ども委員会)
	野内 博	(逗子災害ボランティアネットワーク)
	村上 朝鼓	(逗子市育児サークル連絡協議会)
	小林 五郎	(逗子市子ども会連絡協議会)
	大石 忠	(逗子市身体障害者福祉協会)
	潮村 由紀子	(逗子市青少年指導員連絡協議会)
	酒井 博	(逗子市体育指導委員連絡協議会)
	稲葉 昌代	(逗子市P T A連絡協議会)
	岩間 久美子	(逗子市立小学校長会／逗子市立中学校長会)
	小平 修治	(逗子市老人クラブ連合会)
	荒井 佳子	(逗葉私立幼稚園父母の会連合会)
	若菜 克己	(逗子市福祉部次長)
	上石 保治	(逗子市環境都市部次長)
	森本 博和	(逗子市市民協働部担当部長)
	山田 茂樹	(逗子市企画部防災課長)

基本計画報告書作成 有限会社伊藤寛アトリエ

伊藤寛 (総括・意匠)	伊藤寛アトリエ
林英理子 (ランドスケープ)	Lysning Landscape
大成優子 (意匠)	大成優子建築設計事務所
名和研二 (構造)	NAWAKENJI-M
山田浩幸 (機械設備)	YMO
遠藤和広 (電気)	EOS plus